

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(周辺整備等)	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	4	2	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺整備計画に予定している都市公園の区域決定に必要な組合規約の変更を行う	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について、進捗状況を点検し、組合及び構成市等と協議を進める。
②①に基づく取り組み結果	構成3市の議決を経て、協定が成立し、千葉県からの許可を受けられる見込みとなった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	廃棄物処理施設周辺の住民に対する環境整備を目的として、還元施設の維持管理や周辺環境の改善等に必要な経費の負担を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	廃棄物処理施設を受け入れている地域の環境向上に向けた取り組みについて、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合において、平成27年度に新たに、地元住民、構成市との合意により「廃棄物処理施設周辺整備基本計画」及び実施計画が策定された。周辺整備事業を早期に実現し環境向上を図ることが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による「さわやかプラザ軽井沢」の建設費償還金、維持管理経費及び施設南側斜面緑地の保全や植栽管理等に負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 余熱利用還元施設利用者数	336	344	333	千人	業務取得
	ii 資源化率	20.5	20.3	19.6	%	業務取得
	iii 最終処分率	8.3	8.2	8.1	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	134,103	132,398	金額(千円)	内容	126,874	
	国支出金(千円)		1,826	緩衝緑地購入費		
	県支出金(千円)		130,572	周辺整備費		
	市債その他(千円)					
	一般財源(千円)	134,103	132,398		126,874	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	策定された廃棄物処理施設周辺整備計画については、構成市及び県との調整を図りながら着実に進めていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	運営の効率化について、たえず検証していくため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	廃棄物処理施設周辺整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	○
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度からの新規事業のため、前回の評価で掲げた内容なし。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺整備計画に係る基本設計の作成を行うため、構成市として組合に協力する。
②①に基づく取り組み結果	平成28年度からの新規事業のため、取り組み結果なし。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	旧沼南町との協定書の履行
②事務事業の概要	「ごみ処理事務に関する協定書」の履行を図るため、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合が行う緩衝緑地用地購入の費用を鎌ヶ谷市が負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成27年度に柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合において廃棄物処理施設周辺整備基本計画及び同実施計画が策定され、事業の着実な進捗が求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	鎌ヶ谷市が費用を負担し、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合において、緩衝緑地を購入した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	用地購入		1,500	m ²	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	0	17,206	金額(千円)	内容	9,241	
	国支出金(千円)		17,206	周辺整備費負担		
	県支出金(千円)					
	市債その他(千円)					
	一般財源(千円)	17,206				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	旧沼南町との協定締結当時とはごみ共同処理の実施状況や、各市の状況等が変化している。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	旧沼南町との協定における財産の移管に係る事項が履行された。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	負担金	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
		計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	負担金	17,206	17,206	当初	17,206	H27からの繰越
				H27⇒28繰越		
③達成状況	完了			補正		現年分 17,206
				流用・充当		
④未完了・非着手の理由		平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	ごみの減量業務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	買い物袋引き替え用のエコバックのデザインをリニューアルし、レジ袋の削減など市民のエコ意識の向上を図る。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	生ごみ処理容器等購入補助事業の普及促進を図るため、広報・ごみアプリを通して本事業案内を行う。
②①に基づく取組み結果	リニューアルしたエコバックが好評で、前年度の倍以上の交換件数となり、レジ袋の削減につながる効果を出したと思われる。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	廃棄物の減量をめざし、循環型社会の構築を図る。
②事務事業の概要	有価物回収運動奨励金や買い物袋の持参推進運動協議会の負担金、生ごみ処理容器等購入費補助金の支払いを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	有価物回収・買い物袋持参推進運動及び生ごみ処理機の補助事業について、全体的に減少傾向にあるが、循環型社会の構築に向けて今後も市民の意識高揚を図っていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市内小学校9校のPTA(出す側)と有価物資源組合(回収側)による有価物の集団回収を行い、市民レベルの存続拡大を図るため、両者に対して品目、回収量別に応じて奨励金を交付した。また、生ごみ処理容器等の購入者に、購入費用の一部について補助金を交付した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 有価物回収量	1,172	1,097	1,011	kg	業務取得
	ii 買い物袋の持参運動交換件数	11,527	13,052	12,455	件	業務取得
	iii 生ごみ処理容器補助件数	24	33	16	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	13,512	13,572	金額(千円)	内容	15,783	
	国支出金(千円)		12,461	有価物回収運動奨励金	14,365	
	県支出金(千円)		112	生ごみ処理容器助成金	324	
	市債その他(千円)		999	買い物袋持参推進運動負担金	1,094	
	一般財源(千円)	13,512	13,572			

IV 評価・検討

①課題	有価物の回収量、買い物袋の交換件数及び生ごみ処理容器等の補助件数について、全体的に減少傾向にある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民に直接働きかけることでごみの減量化につながる施策であるため、今後もPR活動等を継続する必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		平成29年度への繰越額(単位:千円)			

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(ごみ処理等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	クリーンセンターしらさぎの延命化対策を環境衛生組合とともに検討する。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	不燃ごみの処理方法について、現有処理施設の能力・性能に適合した処理方法と、処理施設の改善方法を検討する。
②①に基づく取り組み結果	環境衛生組合及び構成市と協議した結果、平成32年度以降に延命化対策事業を行うこととした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①「資源になるもの」等の再資源化による最終処分量の減量を図る。 ②ごみの適正処理を図る。
②事務事業の概要	構成団体の地区内(柏市沼南地区・鎌ヶ谷市全域)で排出されたごみを適正処理するために建設された施設の建設償還金及び施設運転管理等の経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。最終処分場確保の逼迫及び資源の有効活用のため循環型社会形成の取り組みが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	ごみ処理費用及び処理施設建設費償還金に係る負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 再資源化量	6,525	6,425	6,105	t	業務取得
	ii 最終処分量	2,638	2,609	2,536	t	業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	1,108,452	1,182,727	金額(千円)	内容	1,226,554	
			573,239	ごみ処理費負担金		
			605,357	共同化処理費負		
			4,131	ごみ処理施設償還		
一般財源(千円)	1,108,452	1,182,727			1,226,554	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	ごみ焼却施設の老朽化に対し、延命化を行う必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴い、安全な安定した稼働を確保する必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				